ISSN　1345-2142

京都大学大学院

教育学研究科紀要

第 70 号

SSH・SGH指定校における探究学習のカリキュラムに関する検討
－研究開発関連文書の分析を通して－

オープン教育資源の質評価指標の構成に関する研究
－中国の学習者のOERの質への理解を促すために－

青年期の心理的距離感の葛藤へのアプローチ方法の検討
－アタッチメント理論の観点から－

高齢期の性的マイノリティ（LGBT）に関するアイデンティティ発達研究の概観
－欧米諸国における実証研究のスコーピングレビュー－

挫折体験後の心的外傷後成長と心的外傷後低下が精神的健康に与える影響と
その関連要因についての検討

心理臨床における「普通」についての文献展望

日本の精神分析における「甘え」理論の展開と臨床実践

北山理論における「うつろい」概念についての一考察

受験競争をめぐる研究の系譜・死角・展望
－戦後日本の教育社会学史を読みなおす－

「大人ロリータ」からみる女性性と少女性の関係性
－中国のロリータファッション文化参入者の生活史をもとに－

2024

京都大学大学院　教育学研究科紀要　第 70 号

目　　次

論　文：

SSH・SGH 指定校における探究学習のカリキュラムに関する検討 …… 田中　孝平　1
－研究開発関連文書の分析を通して－
オープン教育資源の質評価指標の構成に関する研究 …… 袁　　通衢　15
－中国の学習者の OER の質への理解を促すために－
青年期の心理的距離感の葛藤へのアプローチ方法の検討 …… 加藤　結芽　29
－アタッチメント理論の観点から－
高齢期の性的マイノリティ（LGBT）に関するアイデンティティ …… 上田　裕也　43
発達研究の概観　－欧米諸国における実証研究のスコーピングレビュー－
挫折体験後の心的外傷後成長と心的外傷後低下が精神的健康に与える …… 坂田英里奈　57
影響とその関連要因についての検討
心理臨床における「普通」についての文献展望 …… 坂間　博康　71
日本の精神分析における「甘え」理論の展開と臨床実践 …… 境　　明穂　85
北山理論における「うつろい」概念についての一考察 …… 森　　一也　99
受験競争をめぐる研究の系譜・死角・展望 …… 藤村　達也　113
－戦後日本の教育社会学史を読みなおす－
「大人ロリータ」からみる女性性と少女性の関係性 …… 馮　　可欣　135
－中国のロリータファッション文化参入者の生活史をもとに－
教育映画と視線の分有 …… 山本　源大　149
－ジャン＝リュック・ナンシーのアッバス・キアロスタミ論－
乳幼児期からのメンタルヘルス対策に向けての一考察 …… 上田江里子　163
－気質と腸内細菌叢に着目した発達支援の提案－
1920 年代朝鮮の教育をめぐるナショナリズムと民主主義の関係 …… 北澤　　愛　177
－申興雨 *The Rebirth of Korea*（1920）と J. E. Fisher, *Democracy and Mission Education in Korea*（1928）の比較を中心に－
イギリスにおけるスクールズ・カウンシルの「言語学と英語教育 …… 小柳　亜季　191
プログラム」　－その理論的背景と教材の検討－
戦時体制下における看護学の高等教育への展開 …… 木野　涼介　205
－女子厚生専門学校および女子専門学校保健科の光芒－
日本の育児をめぐる現状と課題解決に向けた展望 …… 等々力花歩　219
－発達科学の観点から－
宣教師 Mary Anna Holbrook と神戸女学院 1894 年「ある日本化運動」…… 三木恵里子　233
－同志社との緊張関係を踏まえて－

鶴見俊輔「限界芸術論」の教育学的意義に関する一考察 …… 梶原　　駿　247
　－ジョン・デューイ「美的経験論」との比較を通して－

資　料：

研究費 …… 261
プロジェクト活動
　教育実践コラボレーション・センター …… 265
グローバル教育展開オフィス …… 270
博士論文 …… 274
修士論文 …… 275
卒業論文 …… 277
執筆者一覧 …… 280
京都大学大学院教育学研究科紀要投稿規程 …… 281

A Study on the Curriculum of Inquiry-Based Learning in SSH and SGH: Analysis of Documents Related to Research Development ..... TANAKA Kohei 1

Research on the Composition of Quality Evaluation Indicators for Open Educational Resources: To Promote Chinese Learners' Understanding of the Quality of Open Educational Resources ..... YUAN Tongqu 15

Examination of Approaches to Conflicts in Psychological Distance During Adolescence: From the Perspective of Attachment Theory ..... KATO Yume 29

An Overview of Gender and Sexual Identity Developments among Lesbian, Gay, Bisexual, and Transgender Older Adults: A Scoping Review of Empirical Studies in Western Countries ..... UEDA Yuya 43

The Influence of Posttraumatic Growth and Posttraumatic Depreciation on Mental Health after Experiencing Frustration and Related Factors ..... SAKATA Erina 57

Literature Review of "Ordinary" in Clinical Psychology ..... SAKAMA Hiroyasu 71

The Development of "Amae" Theory and its Practice in Japanese Psychoanalysis ..... SAKAI Akiho 85

A Study on the Concept of "Transience" in Kitayama Theory ..... MORI Kazuya 99

A Historical Review of Research on Educational Competition for Entrance Examinations in Japan ..... FUJIMURA Tatsuya 113

Relation Between Femininity and Girlishness: The Life Story of "Adult Lolita" ..... FENG Kexin 135

Educational Film and Sharing of a Look: Jean-Luc Nancy's Theory of Abbas Kiarostami ..... YAMAMOTO Genta 149

A Study of Mental Health Support From Early Childhood: Proposal for Developmental Support Focusing on Temperament and Gut Microbiota ..... UEDA Eriko 163

The Relation between Nationalism and Democracy Concerning Education in Korea in the 1920's: With Focus on Comparing Cynn, Hugh Hueng-wo's *The Rebirth of Korea* (1920) and J. E. Fisher's *Democracy and Mission Education in Korea* (1928) ..... KITAZAWA Ai 177

Schools Council's "Programme in Linguistics and English Teaching" in England and Wales: Theoretical Background and Materials
..... KOYANAGI Aki 191
A Study on the Transformation of Education in Joshi Semmon Gakko Including Nursing Education During the Wartime Regime in WWII: The Prosperity and Downfall of Joshi Kosei Semmon Gakko and Hoken-ka at Joshi Semmon Gakko
..... KINO Ryosuke 205
The Present State of Parenting in Japan and Prospects for Resolving Issues: From the Perspective of Developmental Science
..... TODORIKI Kaho 219
Missionary Mary Anna Holbrook and "A Japanization Movement" in Kobe College, 1894: Based on the Tension with Doshisha
..... MIKI Eriko 233
Pedagogical Significance of Shunsuke Tsurumi's "Marginal Art": A Comparison With John Dewey's "Aesthetic Experience"
..... KAJIWARA Shun 247

研　究　費

年月日	研　究　課　題　名	氏　名
2023.4.1	基盤研究（S）　R4 → R5 繰越 個別的育児支援手法の創出を導く養育者―乳児の動態とその多様性創発原理の解明	明和　政子
2023.4.1	基盤研究（B）　R4 → R5 繰越 実行機能を「実行」する知識の獲得過程と運用機構の解明	齊藤　智
2023.4.1	基盤研究（B）　R4 → R5 繰越 近代日本の政治エリート輩出における「メディア経験」の総合的研究	佐藤　卓己
2023.4.1	基盤研究（B）　R4 → R5 繰越 大学教授職の役割分化の実態と論点の整理：日豪の教育担当教員を事例に	佐藤　万知
2023.4.1	基盤研究（B）　R4 → R5 繰越 日本植民地統治下台湾における教育の「植民地性」再考―共時的・通時的比較分析	駒込　武
2023.4.1	基盤研究（B）　R4 → R5 繰越 実行機能を「実行」する知識の獲得過程と運用機構の解明	齊藤　智
2023.4.1	基盤研究（B） 大学教授職の役割分化の実態と論点の整理：日豪の教育担当教員を事例に	佐藤　万知
2023.4.1	基盤研究（B） SNS カウンセリング相談員養成プログラムの開発	畑中　千紘
2023.4.1	基盤研究（B） 共感覚比喩と共感覚現象に共通する認知メカニズム：大規模 web 実験による検討	楠見　孝
2023.4.1	基盤研究（S） 個別的育児支援手法の創出を導く養育者―乳児の動態とその多様性創発原理の解明	明和　政子
2023.4.1	基盤研究（B） 領域横断的な万国博覧会史研究を通じた新しい戦後史叙述の可能性	佐野真由子
2023.4.1	基盤研究（B） コンピテンシーの形成・評価の検討―統合性・分野固有性・エージェンシーに着目して―	松下　佳代
2023.4.1	基盤研究（B） 自己超越的感情の生起メカニズムに関する心理・生物・情報学的研究	野村　理朗
2023.4.1	基盤研究（B） 若年者の犯罪・非行からの離脱プロセス：デジスタンスを促す／妨げる社会的要因の探求	岡邊　健
2023.4.1	基盤研究（B） 子どもの多様なニーズに対応するパフォーマンス評価を活かしたカリキュラム改善	西岡加名恵
2023.4.1	基盤研究（B） An Alternative Mode of Student Well-Being or Unhappy Schools? Exploring Interdependence in Education across East and Southeast Asia, Building Evidence to Impact the Post-SDG 2030 Global Policy Agenda	Rappleye Jeremy

2023.4.1	基盤研究（C） 明治期におけるカナダ・メソジスト教会の教育事業－公教育と学校制度の展開への対応－	田中　智子
2023.4.1	基盤研究（C） 近世医療情報の教育メディア史―「不安」に挑む「施印」	ファンステーンパール ニールス
2023.4.1	基盤研究（C） 自閉スペクトラム特性の強みを探る	明地　洋典
2023.4.1	基盤研究（C） 都市新中間層家庭の人間形成と教育戦略：大正・昭和初期の児童文学の分析を中心に	竹内　里欧
2023.4.1	基盤研究（C） 日本型学校教育の構造変容に対応する資質・能力ベースのカリキュラムと授業の再構築	石井　英真
2023.4.1	基盤研究（C） 教員の思考様式等を考慮した教育政策の立案・実施に関する研究	服部　憲児
2023.4.1	基盤研究（C） STEAM 教育を軸としたカリキュラム・マネジメントの推進にむけた教員の力量開発	開沼　太郎
2023.4.1	基盤研究（C） 社会情動的コンピテンシーの測定と涵養：特性とスキルの弁別のための教育心理学的研究	髙橋　雄介
2023.4.1	基盤研究（C） 公立図書館集会室の理念と現実の確執に関する歴史と現状の分析	川崎　良孝
2023.4.1	基盤研究（C） 人を全体的にとらえるとは：アメリカ哲学の文脈的全体性をめぐる国際的教育研究	齋藤　直子
2023.4.1	基盤研究（C） 教育的関係における信頼の理論と実践に関する研究	広瀬　悠三
2023.4.1	基盤研究（C） 女性のビルドゥングスロマンをめぐる教育社会学的研究―成長なき時代の「成長」再考	稲垣　恭子
2023.4.1	基盤研究（C） 本邦におけるスーパーヴィジョンの成り立ち―精神分析史からのアプローチ―	西　見奈子
2023.4.1	基盤研究（C）　R4 → R5 延長 他者の「受諾」に向けた哲学実践：アメリカ超越主義の教育的意義をめぐる国際対話研究	齋藤　直子
2023.4.1	基盤研究（C）　R4 → R5 延長 コンセプトマップによる学習成果可視化のための評価指標の開発とウエブシステムの構築	田口　真奈
2023.10.1	基盤研究（C） 人間本性と理性の陶冶についての教育哲学研究：実践知の特性の究明と涵養に向けて	三澤紘一郎
2023.4.1	挑戦的研究（開拓） カリキュラム空間：生徒の自己調整思考能力を高める革新的なカリキュラム編成	Manalo Emmanuel

研　究　費

2023.4.1	挑戦的研究（萌芽）　R4 → R5 延長 ワーキングメモリ・トレーニングの「負の効果」を越えて	齊藤　智
2023.4.1	挑戦的研究（萌芽）　R3 → R5 延長 ビルドゥングスロマンと「女性の生き方」の表象に関する比較文化社会学研究	稲垣　恭子
2023.4.1	挑戦的研究（萌芽）　R3 → R5 延長 SNS を活用した心理支援システムの開発と理論的構築	畑中　千紘
2023.6.30	挑戦的研究（萌芽） 「いき」の認知科学	野村　理朗
2023.4.1	若手研究 オランダのオルタナティブスクールにおける教師の指導性	奥村　好美
2023.4.1	若手研究 意味的類似性効果に基づく意味的保持メカニズムの解明	石黒　翔
2023.4.1	若手研究 童話『ピノキオ』をめぐる差別図書問題と図書館の対応に関する総合的研究	福井　佑介
2023.4.1	若手研究　R4 → R5 延長 里親支援についての日伊比較研究：〈脱施設化〉の社会的背景の解明に向けて	藤間　公太
2023.4.1	若手研究　R2 → R5 延長 自閉症の選好性過剰説の認知科学的検討	明地　洋典
2023.9.8	国際共同研究加速基金（海外連携研究） 心の働きを制御する心の働きを探る国際共同研究：社会構成主義的心理科学アプローチ	齊藤　智
2023.4.1	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B）） いかにして国際社会で使える英語を身につけるか：スピーキング力と意欲の向上を端緒に	Manalo Emmanuel
2023.4.1	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））　R4 → R5 延長 他なるものとの共存に向けた政治教育：日本先導によるアメリカ実践哲学の国際対話研究	齋藤　直子
2023.4.1	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））　R3 → R5 延長 認知リソース概念の誤謬に挑む国際共同研究	齊藤　智
2023.4.1	特別研究員奨励費　R4 → R5 繰越 Hebb 反復効果生起メカニズムの再検討	ARAYA OROZCO CLAUDIA
2023.4.1	特別研究員奨励費　R4 → R5 繰越 戦後初期の台湾「再解放」運動―「二つの中国」の狭間における非同盟主義の可能性	張　彩薇
2023.4.1	特別研究員奨励費 妊娠期から産後の母子間の身体的関係性からみるアタッチメント	田中友香理
2023.3.8	特別研究員奨励費 第一次世界大戦後の日米医学交流に関する研究	藤本　大士
2023.3.8	特別研究員奨励費 懐かしさ感情の生起メカニズムの解明：再認記憶の二重過程モデルに基づく検討	池田　寛香
2023.3.8	特別研究員奨励費 畏敬が自己認知に及ぼす影響―心理・神経・生物学的基盤の検討―	澤田　和輝

2023.3.8	特別研究員奨励費 高大接続に向けた高校の探究学習モデルの構築	田中　孝平
2023.3.8	特別研究員奨励費 日本放送協会「中国語講座」からみる日中交流のメディア史	温　　秋穎
2023.3.8	特別研究員奨励費 フンボルトの人間形成・陶冶の政治理論の再構成	柳田　和哉
2023.3.8	特別研究員奨励費 俳句の曖昧性が審美性に与える影響の心理・神経・生理メカニズムの解明	櫃割　仁平
2023.3.8	特別研究員奨励費 中国内モンゴルにおける自治運動と民族語教育－ 1930~50 年代に着目して－	包　　福昇
2023.3.8	特別研究員奨励費 乳幼児の気質・認知特性の多様性機序の解明－腸内細菌叢に着目して	上田江里子
2023.3.8	特別研究員奨励費 乳幼児の援助行動の表出メカニズムの解明　―他者との行動同期経験の影響を通して	等々力花歩
2023.3.8	特別研究員奨励費 新旧ジェンダー観の対立構造に関する文化社会学的研究―近現代歌壇を事例として―	松田　康介
2023.3.8	特別研究員奨励費 少年非行とセルフコントロールの関連性における多文化比較研究	齋藤　尭仁
2023.3.8	特別研究員奨励費 「実践・批評モデルの授業研究」を基盤としたカリキュラム改善プロセスの解明	岡村　亮佑
2023.3.8	特別研究員奨励費 近代日本の高等教育領域における看護学の展開に係る歴史的研究	木野　涼介
2023.3.8	特別研究員奨励費 身体活動による不安低減効果の個人差に関する実証的検討―内受容感覚に着目して	梶原　隆真
2023.3.8	特別研究員奨励費 大学入学者選抜における多面的・総合的評価に向けた学内体制のあり方に関する検討	大野真理子
2023.3.8	特別研究員奨励費 認知トレーニングの「負の効果」から認知機能の可塑性を捉える	NI　NAN
2023.3.8	特別研究員奨励費 就学期前後における自己制御と腸内細菌叢との発達的関連	藤原　秀朗

教育実践コラボレーション・センター
「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究を目指して」

〈活動概要〉

教育学研究科では平成19年度に特別教育研究経費（教育改革）による「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究推進事業」のプロジェクトが立ち上げられ、教育実践コラボレーション・センターとして、さまざまな活動を行ってきた。教育実践コラボレーション・センターの目的は、現場から持ち込まれた具体的な問題に対し、異分野融合チームを組織するなどして、教育学研究科としての組織的な対応をコーディネートすることにある。その際、子どもをめぐる教育問題の中心を「生命性を深めること」（心の問題）と「有能性を高めること」（学力問題）という2つの軸として取り出し、そのトータルな育成の方法を探っている。また、教育研究におけるマクロ的アプローチ（教育制度学や教育行政学、比較教育学）とミクロ的アプローチ（認知心理学や心理臨床学、教育哲学や教育方法学）を統合しつつ継続的に研究を進めている。

平成25年度から平成29年度にかけては科学研究費補助金（基盤研究A）による研究課題「学校を中心とする教育空間における力動的秩序形成をめぐる多次元的研究」（研究代表者：桑原知子）が採択され、活動を展開した。校内暴力、不登校、学級崩壊、いじめなどは学校教育の秩序を揺るがす問題だと定義され、それへの対応として、秩序から逸脱した人や状態をいかに秩序の中に回収するのか、乱れた秩序をいかに再び平衡に戻すのかが考えられてきた。しかしながら、この前提が崩れはじめたことで、学校のみならず、地域・社会、家庭においても、従来の秩序に戻せばいいという発想ではうまくいかなくなっている。そこで、この研究課題においては、学校、地域・社会、家庭、電子空間といった複数の空間での人々の相互作用のあり方を解明し、秩序のゆらぎがどのようなものであるかを明らかにするとともに、その中でどのような秩序が動的に、新たに立ち上がってくるのかということを探究するために、実践・研究を行った。 2020年9月から2021年12月には、GAPファンドによるプログラム「ポスト・コロナの初等中等教育におけるICT活用に関する研修プログラム開発と具体的提言」（代表者：西岡加名恵）に取り組んだ。連続講演会の開催や、オンライン研修「学校教育における ICT 活用の基礎講座」のコンテンツの開発、提言「学校教育における ICT 活用の在り方―公正かつ魅力的で効果の高いポスト・コロナの教育の実現に向けて」（https://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/cms/wp-content/uploads/GAP_Final-Proposal20211130_web. pdf）の公表などを行った。この成果を下敷きとしつつ、さらに新たな内容を加えて、『世界と日本の事例で考える学校教育×ICT』（明治図書、2023年）を刊行した。また、2020年10月からは、全学経費によるプロジェクト「ポストコロナ時代における教育問題解決に向けた学校支援の展開」を進めた。そこでは、「ポストコロナ時代における新たな学校モデル」に関する提言（http://collabo.educ.kyoto-u.ac.jp/teigen/）を公表するとともに、『検証 日本の教育改革

－激動の 2010 年代を振り返る』（学事出版、2021 年）を刊行した。

継続的に開催してきた「知的コラボの会」は、本年度、ついに 50 回を超えた。新しく研究科に着任された先生方に話題提供していただいているほか、外部の講師を招いた講演会なども開催しており、毎回、知的刺激に満ちた会となっている。2023 年 5 月 31 日～6 月 6 日にかけては、グローバル教育展開オフィスと当センターの共催として、第 24 回教育学研究科セミナー「分野横断型意見交換会」を開催した。その中で、本研究科の強みは、教育について多角的なアプローチを採用しつつ、本質的な概念を根本的に問い直すような研究を進めている点にあるということが改めて確認された。一方で、本研究科が進めるべきカリキュラム改善などに関する意見も出された。これらの意見についてはリスト化して教授会でも共有し、今後の改善にもつなげる方向で、現在も検討を続けている。また、北京師範大学教育学部との学術交流会をオンラインで開催した。さらに、教育実践コラボレーション・センターの一組織である E.FORUM（教育研究開発フォーラム）は、現職教員の力量向上のために、研修や連続研究会などを開催し、学校現場の課題解決に資するための研究開発を推進している。

〈講演会・シンポジウム・ワークショップなど〉（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

研究集会「私の教師生活：京都の綴方教師として」

- 日時：2023 年 4 月 23 日（日）14：00～16：50
- 場所：京都大学教育学部 第 1 講義室 （オンライン併用開催）
- 後援：教育実践コラボレーション・センター　E.FORUM
  （主催：日本教育学会近畿地区）
- 講師：小宮山繁（元京都市小学校教諭　日本作文の会元副委員長、近畿作文の会元会長、京都綴方の会元会長、京都市つづり方の会元事務局長等歴任）

講演会「ことば・思考の力をどう育てるか：社会の包摂性を高めるために」
「算数学力不振の理由：認知科学の観点から」

- 日時：2023 年 5 月 26 日（金）19：00～21：00
- 場所：オンライン開催
- 主催：日本学術会議・日本教育学会近畿地区
  共催：教育実践コラボレーション・センター　E.FORUM
- 講師：今井 むつみ（慶應義塾大学）

第 50 回「知的コラボ」の会
「家族主義がもたらす演繹的政策立案：社会的養護、児童虐待を事例に」

- 日時：2023 年 6 月 29 日（木）　15：30～17：00

- 場所：京都大学総合研究 2 号館 第 2 講義室
- 話題提供：藤間公太（京都大学）

連続研究会「『生きる』教育」プログラム（全 5 回）
第 3 回 「ライフストーリーワークの視点を活かした治療的教育」
- 日時：2023 年 7 月 17 日（月）14:00～16:00
- 講師：別所美佐子（大阪市立田島南小学校）

第 4 回 「『生きる』教育」と虐待臨床」
- 日時：2023 年 7 月 21 日（金）18：30～20：00
- 講師：西澤哲（山梨県立大学）

第 5 回「『安心・安全』の学校づくり」
- 日時： 2023 年 11 月 3 日（金）14：30～16：30
- 講師：田中梓（大阪市立田島中学校）、木村幹彦（大阪市立南市岡小学校）（登壇順）

- 司会・コーディネーター：西岡加名恵（京都大学）

変動の時代の教育改革者たちに学ぶ：『時代を拓いた教師たちⅢ』オンライントークイベント
- 日時：2023 年 7 月 23 日（日）10：00～12：00
- 場所：オンライン開催
- 共催：神戸大学大学院人間発達環境学研究科、京都大学教育学研究科 教育実践コラボレーション・センター
- 担当：川地亜弥子（神戸大学）、吉永紀子（同志社女子大学）、窪田知子（滋賀大学）、中西修一朗（大阪経済大学）、田中耕治（京都大学名誉教授・佛教大学）（登壇順）
- 司会：西岡加名恵（京都大学）

E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修
- 日程：2023 年 8 月 18 日（金）・19 日（土）
- 場所：京都大学文学部新館、総合研究 2 号館
- 講師：西岡加名恵（京都大学）、石井英真（京都大学）、楠見孝（京都大学）、梅村高太郎（京都大学）、明和政子（京都大学）、奥村好美（京都大学）、服部憲児（京都大学）　（登壇順）

「高校におけるデータサイエンス×探究を考える」
- 日時：2023 年 9 月 21 日（木）9：40～12：00

- 場所：京都大学国際科学イノベーション棟　5階　シンポジウムホール
- 後援：教育実践コラボレーション・センター
  （主催：秋田県立湯沢高校、京都大学国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター）
- 担当：久富望（京都大学）

福岡県立京都高等学校「京都研修」
- 日程：2023 年 10 月 26 日（木）・27 日（金）
- 場所：京都大学・吉田キャンパス他
- 交流会：油田優衣（京都大学大学院学生）、京都大学教育学部学生等 3 名
- 授業見学：服部憲児（京都大学）

北京師範大学・京都大学院生学術交流　2023
「Education Reform and Innovation in the New Era」
- 日程：2023 年 10 月 21 日（土）
- 場所：オンライン開催
- 主催：京都大学大学院教育学研究科　教育実践コラボレーション・センター

「無心の対話（四）」
- 日時：2023 年 11 月 2 日（木）10：00～12：30
- 場所：京都大学 楽友会館
- 講師：松木邦裕（京都大学名誉教授）、西平直（京都大学名誉教授・上智大学グリーフケア研究所教授）、Rudi Vermote（ルーヴェン・カトリック大学名誉教授）
- 企画・司会：西見奈子（京都大学）

「企業内研修を見つめ直す：カリキュラム研究の視点から見る企業内研修の設計思想」
- 日時：2023 年 11 月 6 日（月）17:00～18:00
- 場所：オンライン開催
- 主催：京大オリジナル株式会社
  共催：京都大学産官学連携本部、京都大学教育学研究科 教育実践コラボレーション・センター
- 講師：西岡加名恵（京都大学）、石井英真（京都大学）

第 27 回教育学研究科セミナー・第 51 回「知的コラボ」の会
「Does more education lower the barriers to social mobility?：An analysis of three birth cohorts during a period of educational expansion in Brazil」

- 日時：2023 年 12 月 5 日（火）　13：15〜15：00
- 場所：京都大学教育学部 第一会議室
- 話題提供：Sin Yi Cheung（Cardiff University）
- コーディネーター：藤間公太（京都大学）

第 52 回「知的コラボ」の会
「地方の心理臨床のプロセスから考える心のレジリエンス」
- 日時：2023 年 12 月 7 日（木）　15：00〜17：00
- 場所：京都大学総合研究 2 号館 第 2 講義室
- 話題提供：野口 寿一（京都大学）

第 53 回「知的コラボ」の会
「シュタイナー教育の実践：その魅力と現状・課題」
- 日時：2024 年 1 月 9 日（火）　16：00〜18：00
- 場所：京都大学教育学部 第一会議室
- 話題提供：若林伸吉（京田辺シュタイナー学校）
- コーディネーター：広瀬悠三（京都大学）

第 54 回「知的コラボ」の会
「教育研究と親学問：哲学・教育哲学・philosophical anthropology」
- 日時：2024 年 2 月 21 日（水）　13：30〜15：30
- 場所：京都大学教育学部 第一会議室
- 話題提供：三澤紘一郎（京都大学）

E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修
「第 19 回実践交流会／公開シンポジウム：深まりのある探究へと生徒をどう導くか」
- 日時：2024 年 3 月 23 日　10:00〜16:15
- 場所：京都大学総合研究 2 号館・3 号館
- 登壇者：石田智敬（神戸大学）、肖瑶（京都大学大学院）、岡村亮佑（京都大学大学院）、恩田徹（京都大学特任教授）、久富望（京都大学）

グローバル教育展開オフィス
～コロナ禍後の国際教育研究の再開～

グローバル教育展開オフィス（以下、オフィス）は、本研究科の学際的研究教育拠点として 2017（平成 29）年度の設置以来、グローバル時代の教育課題に取り組み、その成果を国内外に発信することを目的に、積極的な教育研究活動を行ってきている。オフィスは、「創生開発ブランチ」と「国際教育支援ブランチ」の 2 部門からなる。「創生開発ブランチ」はオフィスの統括と研究プロジェクトの推進を主に担当し、「国際教育支援ブランチ」は海外研究機関との学術交流の展開や大学院を中心とするグローバル教育の企画と実施を主に担当している。オフィスは 2020（令和 2）年度から基幹経費化され、本研究科における国際教育研究や国際学術交流の中核を担っている。

コロナ禍の終息に伴って、今年度（2023 年度）の事業は徐々に対面での実施を再開するようになった。オフィスは以下のような形で、研究成果の発信に向けた取り組みを進め、大学院学生の国際教育研究活動や研究科内の国際交流に関する取り組みを支援した。

【基幹事業（研究）】

＜「日本型教育」プロジェクト＞

2018（平成 30）年度から「新しい理論的・実践的基盤に立った教育文化・知の継承支援モデルの構築と展開」をテーマに、「日本型教育」プロジェクトを進めてきた。このプロジェクトの目的は、日本の教育を支えてきた文化のしくみをグローバルな視野から問い直すことによって、教育の新しいグローバル・スタンダードとそれに基づく教育モデルの可能性を理論・実践の両面から探究し、その成果を「方法としての京都」として国内外に発信していくことである。

今年度は、プロジェクトの成果の書籍化に向けた作業を進めるとともに、教育実践コラボレーション・センターと共同で本研究科における代表的な論文の翻訳及びとりまとめ作業を進めている。

【基幹事業（国際教育）】

＜グローバル教育科目＞

「グローバル教育科目」は、修士課程及び博士後期課程の大学院学生を対象に、グローバルな視野で研究や実践を行うためのスキルを身につけることを目的に開設されている。「グローバル教育科目」群には、「国際合同授業」、「国際教育研究フロンティア」、「国際インターンシップ」、「国際フィールドワーク」が含まれる。オフィスでは、これらの科目の運営・実施の支援を通して、大学院学生に学びの機会を提供している。

今年度は、海外渡航の制限緩和に伴って、「国際インターンシップ」、「国際フィールドワーク」の履修登録者がより広範な地域（例：オーストラリア、イギリス、ドイツ、スウェーデンなど）において、多様な国際研究活動（例：研究対象機関への訪問、教員及び学生へのインタビュー調査の実施、授業見学）を行った。オフィスでは、その指導及び支援を行った。

加えて、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとの「国際合同授業」実施の支援を行った。

【支援事業（研究）】

オフィスでは、大学院学生の国内外における研究成果の発信を支援している。大学院学生の研究の国際化を促進するため、国際学会での研究発表の構想やリハーサル、英語論文の執筆、ジャーナルの選び方や投稿など、基礎から応用まで幅広い支援を含んでいる。

今年度は、対面開催の国際学会で発表を行う大学院学生が多く、ポルトガルやブルガリアを含む多様な地域における計 22 件の国際学会発表に対して支援を行った。そのうち、優秀賞などの受賞についてオフィスのホームページで発信しており、若手研究者の国際的な活動に向けたモチベーションの向上を促している。

国際学会での発表への支援は、インパクトの高い国際学術誌への投稿と掲載につなげることを目標としており、オフィスでは、昨年度に引き続き、今年度も大学院学生の国際学術誌への論文投稿のための校閲・翻訳費用の支援を行った。昨年度より多くの応募があり、計 7 件の論文投稿の校閲費用支援を実施した。

さらに、外国語での論文作成のサポートの一環として、研究科内の大学院学生を対象とする「英語論文執筆リトリート（Writing Retreat）」の開催を支援した。

英語論文執筆リトリート（Writing Retreat）

- 日時：2023 年 11 月 10 日（金）～12 日（日）
- 場所：滋賀県高島市白浜荘
- 内容：教育学や心理学の国際学術誌に投稿する論文を執筆中の計 6 名の大学院学生が参加し、論文執筆の手順やアウトプットに関するガイダンスの聴講のほか、集中した執筆のための効果的な目標設定及び時間の使い方の実践に取り組んだ。

＜特別講座＞

「国際学術出版（英語）を本気で考えているあなたへ（For those of you who are seriously considering international academic publishing (in English)）」をテーマに、元オフィス長の高山敬太先生による特別講座をオンライン（Zoom）開催した。オフィスの教育コンテンツとして、特別講座の映像資料をオフィスのホームページにて公開している。

特別講座

「国際学術出版（英語）を本気で考えているあなたへ（For those of you who are seriously considering international academic publishing (in English)）」

- 日時：2024 年 1 月 31 日（水）16:00～17:30
- 講演者：高山敬太先生（Centre for Research in Educational and Social Inclusion, Education Futures, University of South Australia）
- 内容：学内外の研究者、大学院学生、学部学生を対象に、国際学術誌に投稿するための方法論及び意義について講義が行われるとともに、参加者から事前に挙げられた複数の質問に対する回答及び補足の説明が行われた。

【支援事業（国際交流）】

オフィスでは、本研究科における学術交流協定校との国際交流事業を支援している。今年度は、以下の事業の運営・実施を支援した。

北京師範大学教育学部との大学院生学術交流会

- 日時：2023 年 10 月 21 日（土）
- 場所：オンライン
- 内容：「Education Reform and Innovation in the New Era」をテーマに、本研究科と北京師範大学の大学院学生計 13 名が研究発表と質疑応答、懇談会を通して、学術交流を行った。

ドルトムント工科大学教育・心理学部との研究ワークショップ

- 日時：2024 年 3 月 25 日（月）・26 日（火）
- 場所：京都大学時計台会議室Ⅲ・Ⅳ・オンライン
- 内容：第 5 回ドルトムント工科大学教育・心理学部―京都大学大学院教育学研究科・教育学部・研究ワークショップを開催した。テーマは Cosmopolitan and Citizenship Education in Times of Crisis で、ドルトムント工科大学の教授・助教・大学院学生合わせて 8 名がこのテーマのもとそれぞれ発表し、その後小グループに分かれてのディスカッション及び全体討論を行い、研究交流を深めた。

【その他】

研究科内外の国際化を促進するために、教育学部・教育学研究科内での留学生交流会の開催と、香港大学との研究プロジェクトの後援を行った。

留学生交流会

- 日時：2023 年 7 月 27 日（木）　15:00～16:30
- 場所：教育学部　第 1 会議室
- 内容：教育学部・教育学研究科に在学している留学生の留学に対する期待と、学生生活での経験及び意見について、40 名近くの学部学生及び大学院学生（留学生、日本人学生）、教職員がディスカッションし、意見交換を行った。

香港大学との研究プロジェクト「アジア型大学探求プロジェクト」

- 内容：「アジア型大学モデルの探求」をテーマに、本研究科と香港大学の教員、大学院学生が研究発表と質疑応答、指定学術論文に関するディスカッション等を通じて学術交流を行った。

第一回研究会

- 日時：2023 年 12 月 22 日（金）
- 場所：京都大学吉田泉殿

第二回研究会

- 日時：2024 年 3 月 4 日（月）～5 日（火）
- 場所：香港大学・オンライン

令和５年度　学位（博士）授与者及び題目一覧

課程博士　※令和６年３月授与まで

氏　　名	論　　文　　題　　目
清　重　英　矩	風景構成法における彩色過程の心理療法的意義に関する研究
飯　尾　　健	大学教育における情報リテラシーの多様性とその育成および評価に関する研究 ―GeSTE Windows にもとづいて―
香　西　佳　美	プレ FD を通じた大学初任教員の授業力量形成の過程と支援に関する研究
岩　田　貴　帆	自己評価に基づく自律的なパフォーマンス改善を促す教授法の開発 ―学生主体の評価活動を取り入れた授業実践を通して―
金　子　迪　大	対人関係におけるウェルビーイングの低下が摂食行動につながる心理的メカニズムの検討
ARAYA OROZCO CLAUDIA	Re-examining the underlying mechanisms of the Hebb repetition effect in human memory（記憶におけるヘッブ反復効果の生起メカニズムの再検討）
温　　秋　穎	〈声〉の中国語受容の文化史研究 ―もう一つの教養語をもとめた近代日本
田　中　孝　平	高校の探究学習を通じた高大接続に関する研究 ―移行についての学生の語りの分析にもとづいて―
櫃　割　仁　平	曖昧性が俳句の審美性に与える影響：心理学・神経科学的検討
澤　田　和　輝	畏敬の念が創造的思考に及ぼす影響
森　本　和　寿	アメリカ合衆国における表現的ライティング教育の理論と実践 ――個人と学問をつなぐカリキュラム構造の探究――

修士論文題目一覧

氏　　名	論　　文　　題　　目
植　田　健　介	戦前期における民間航空の発達と「航空思想」の普及 ―逓信事業との関連に着目して―
大　隈　　楽	京都帝国大学における「学生思想問題」への対応 ―学生監・学生主事の役割に着目して―
明　石　寛　太	ネル・ノディングズによるケアリング論の意義と課題 ―ケアと「知ること」に着目して―
粂　川　薫　樹	バウハウスにおけるカリキュラムおよび教育実践
小　松　佳　生	ハワード・ガードナーによる教育方法論の展開
田　野　　茜	G. モスコウィッツによる人間中心の言語教育論
三　好　真　史	橋本重治の成績評価論に関する考察
SACHINI DILANKA UDAWATTA	重松鷹泰による教師教育論の検討 ―授業分析に着目して―
田　淵　知　紗	及川平治による幼小接続のカリキュラム構想
河　合　　風	鑑賞教育とネガティヴ・ケイパビリティ ―ジョン・デューイの美的経験論を手がかりに―
呉　　尚　峻	The Japaneseness of Japanese English: Thinking through Esyun Hamaguchi's Contextualism
岡　野　裕　仁	自然言語処理によるセルフ・コンパッションの推定
黒　星　きらら	Understanding Conformity and the Influence of Others' Facial Expressions and Related Factors
小　池　　光	伝統芸能「能」実践者における内受容感覚への気づきに関する研究
竹　浦　夏　野	言語性創造性課題における固着プロセス ―音韻レベルでの影響に着目して―
林　　尭　親	特性的スピリチュアリティが認知の変容に及ぼす影響
WOODMAN KATARINA LYNN-IRENE	Audiovisual Speech Perception in Second Language Listening
岡　村　百　香	感情概念の理解と分化が感情制御に対して与える影響
鍵　本　　源	大学生における無意識的罪悪感および感謝特性と抑うつ傾向の関連について ―質問紙調査を用いて―
斉　藤　祐　生	養育者とのアタッチメントとレジリエンスの関連
下　野　　遥	現代の大学生における葛藤の抱えられなさと関連する心理的要因の検討： TAT からみる世界とのかかわり方に着目して
杉　山　佳菜絵	交互色彩分割法における相互交流プロセスについての検討 ―自己感に着目して
多賀谷　　光	対人葛藤場面におけるユーモア志向と過剰適応との関連 ―P-F スタディでの外言と内言に着目して―
豊　嶋　貴　彦	現代の大学生における「家」イメージと孤独感との関係についての臨床心理学的検討

前　野　慶　太	バウムテストにみられる自己感の特徴の検討 ―自己と他者の関連を踏まえて―
竹　内　羽　美	大学生・大学院生の対象関係と摂食行動についての研究
鈴　木　華　子	学校での性教育の現状と課題 ―性教育に関わる団体・サークルに所属する学生へのインタビュー調査から―
山　内　湧　貴	戦後史における図書館法理念とその担い手の問題 ―1970 年代社会教育法「改正」問題から―
油　田　優　衣	治療の選択をめぐる障害のポリティクス： SMA 当事者へのインタビューを通じて
井　料　央　智	高大連携を活用した進路先の拡充による魅力ある高校づくりに関する研究 ～大阪府の公立高校を事例として～
小　島　美　月	インド各州政府の初等教育段階における教授言語に関する方針の研究
佐　藤　岳　流	「美術官僚」九鬼隆一の選挙干渉 ―明治中期の官僚政治家に関する一考察
西　山　喜満主	韓国社会における教育論争の展開に関する研究 ―教育の「正常化」言説を手がかりとして―
TAN ZHIQI	二極化する留学経験：シドニー大学のビジネス関連学科における中国人学生を事例に

卒業論文題目一覧

氏　名	論　文　題　目
池上明里	戦後日本におけるアマチュア合唱団と福永陽一郎 ―「音楽する喜び」とは何か？
出田結友	ランシエールの「普遍的教育」における教師の役割
今島諒	カントの道徳教育における協働的な学び ―「理性の公的使用」を手がかりに―
岡阪健龍	苦悩を受容するということ ―V.E. フランクルの＜責任性＞に着目して―
岡本惇平	教育権理論における「親」の批判的検討 ―M. Minow の関係的権利論を手がかりとして―
川井怜士	三宅なほみの「知識構成型ジグソー法」の成立過程について
柴原奨	21 世紀における昆虫採集としてのポケモン ―「収集」と「整理」のあり方に着目して
清水一希	竹内常一による学習指導論の展開
中川莉紗子	食農体験は自然と命に対する意識及び行動にいかなる影響を及ぼすか ―無農薬農業従事者及び消費者へのアンケート調査に基づく考察―
長野響哉	乳児期における社会的学習とその関連要因 ―養育者の属性と顕示手がかりに着目して
春名花音	高等学校の探究学習に関する検討 ―京都市立堀川高等学校の「探究基礎」を中心に―
平井悠太	大正・昭和戦前期の算術教育における珠算の位置づけ ―商除法の採用をめぐる議論に着目して
平田奈々子	「いのちの教育」再考 ―澤瀉久敬の身体論を手がかりに―
松本千明	日常場面における母親の育児ストレス ―主観報告と生理動態の関連
水野夏	児童生徒および教師の支援を目的とした個人データ活用プログラムの検討 ―研究者へのインタビューから
森田真白	佐藤学による教師の力量形成論
小島吹雪	大人になり続けるとはいかなることか ―エマソン・ソローにおける「去る」概念を手がかりに―
渡辺慎太郎	挫折からの変化・成長を導く教育
太田朋香	大学生の居場所感と友人関係について
奥村亮彦	大学生における妄想様観念およびその主題と孤独感との関連
鈴木陵我	自己不一致の自己評価側面からみた「傷つき体験」の主観的体験構造について
谷坂知美	青年期における過剰適応傾向と自己の捉え方との関連について
杜美怡	触覚と美的感情
中司栞琴	共同膳における共食と協力行動との関係について

永井萌花	青年期の親子関係と青年の心理的自立に関する研究
西川結那	大学生における自己愛的脆弱性と自己の二面性およびレジリエンスとの関連 —対人葛藤場面の略画法と質問紙法を用いて—
西田早希	物語読解に挿絵が与える影響の個人差の検討 —視空間ワーキングメモリ容量を中心に—
西田帆花	日常的な活動において内発的動機づけが高くなる要因に関する検討 —「仕事のパラドックス」の解決に向けて—
溝脇風子	切なさ感情の特徴と生起プロセス
村山　新	定型発達者における聴覚の特異性と自閉傾向の関連の検討
山口理奈	求心顔や遠心顔がその印象に及ぼす影響
山本弦季	記憶の忘却における自己選択効果
飯田望未	SNS 利用に伴う心理的負担 —ストレスコーピングと居場所感による検討—
梶山葉子	幼児の実行機能に対する養育態度の影響 —集団主義的な国家の一例としてのラオスにおける検討—
高橋香帆	社会的評価ストレス場面における対処傾向と他者に求めるふるまいの関連
高橋尚悟	VR 環境でのアバターが対象の大きさ知覚に与える影響
櫻井義泰	大学生における自閉スペクトラム傾向と友人に対する自己開示の深さの関係について
飯石元哉	オルタナティブスクールと不登校支援の関係性
石川里紗	大学卒業後の就職による若者転出に対する取り組み —近畿地方の公立大学に着目して—
奥原理映子	フィリピンにおける OOSC への就学支援策の展開
香川楓子	ファンシーグッズ消費における企業と子どもの関係 —1970–80 年代のサンリオに着目して—
川崎悠貴	「望ましい教師」はどのように描かれてきたか —教員採用試験対策雑誌の内容分析から—
上妻里帆	STEAM 教育の受容に関する研究
小林恭子	スウェーデンと日本の教育におけるジェンダー
齋藤惟成	アメリカにおけるインターンシップの展開に関する考察
笹田照央	高度経済成長期における社会問題としての子どもの遊び場と都市公園
定山愛梨	女子校では生徒の意識がどのように形成されるのか —進学校の OG と教師へのインタビュー調査を通して—
佐藤大修	独身寮管理技術の系譜学
佐藤奈央	「地域とともにある学校づくり」を通じた学校の位置づけの変容 —文部科学省審議会の議事録及び答申の分析を通じて—
重定みのり	「美人」の経験するルッキズム —女性モデル・アイドルへのインタビューから—
杉谷佳琳	事実婚に関するメディア言説とその変化

令和５年度卒業論文

土　谷　亜友美	高学校歴女子大学生にとって結婚とは何か ―京都大学の女子学生への半構造化インタビューを通して―
出　口　　花	児童自立支援施設における支援の様態 ―学校教員と福祉職員の関係性に着目して―
冨　田　彩　加	イギリスにおける乳幼児期の教育とケアに関する政策の展開 ―イングランドとスコットランドの比較―
長　野　幸　樹	財政再建下の自治体における教育行政・事業の変更とその過程 ―北海道夕張市の教育行政を事例に―
永　橋　風　香	ニュージーランドにおける多文化共生の論理に関する研究 ―二文化主義と多文化主義をめぐる議論に注目して―
児　子　柊　平	学校図書館におけるプライバシー論の展開
早　川　あゆ美	地方自治体による塾代等の助成制度の様態とその運用に関する研究 ―東京都「受験生チャレンジ支援貸付事業」に着目して―
堀　口　叶　夢	夢を追う女性たち：ダンサーの自己実現とライフコースをめぐる認識
村　田　裕　佳	中国における華僑に関する教育政策の展開
八　神　文　香	高等学校における外見に関する校則の規定とその運用に関する研究
木　元　　慎	学校事務職員の職務のあり方に関する検討 ―教職協働を手がかりに―
岡　田　　悠	若者は動画コンテンツをどう学習に利用するのか ―YouTube と書籍の比較を中心に
田　村　昌之晋	銘柄大学体育会学生の就職活動における選択と戦略
藤　原　大　成	ラッパーにとって「売れる」とは何か ―ヒップホップにおける芸術的価値と商業的価値をめぐって―
村　田　莉　基	選書ツアーの理念と実態
小　田　恭　平	思い出を振り返りグループで語るということ ―「アルバムセラピー」の開発者と受講者への調査に基づく検討―
田　中　優　大	日本におけるアントレプレナーシップ教育の充実に関する研究と考察 ―アメリカの事例を手がかりとして―

執筆者紹介（執筆順）

田中　孝平	日本学術振興会特別研究員　高等教育学コース　博士後期課程３回生
袁　　通衢	高等教育学コース　博士後期課程３回生
加藤　結芽	臨床心理学コース　博士後期課程２回生
上田　裕也	臨床心理学コース　博士後期課程２回生
坂田英里奈	臨床心理学コース　博士後期課程１回生
坂間　博康	臨床心理学コース　博士後期課程２回生
境　　明穂	臨床心理学コース　研修員
森　　一也	臨床実践指導者養成コース　博士後期課程２回生
藤村　達也	教育学研究科　助教
馮　　可欣	教育文化学コース　博士後期課程１回生
山本　源大	教育支援機構奨励研究員　臨床教育学コース　博士後期課程３回生
上田江里子	日本学術振興会特別研究員　教育方法学・発達科学コース　博士後期課程３回生
北澤　　愛	教育哲学・教育史学コース　博士後期課程２回生
小柳　亜季	教育方法学・発達科学コース　博士後期課程３回生
木野　涼介	日本学術振興会特別研究員　教育哲学・教育史学コース　博士後期課程１回生
等々力花歩	日本学術振興会特別研究員　教育方法学・発達科学コース　博士後期課程３回生
三木恵里子	教育哲学・教育史学コース　博士後期課程２回生
梶原　　駿	臨床教育学コース　博士後期課程３回生

※投稿論文数は21件、うち18件の論文を採択した。

京都大学大学院教育学研究科紀要投稿規程

2015.04.14 改訂

2016.05.10 改訂

2018.04.10 改訂

2019.04.17 改訂

（1）投稿資格

単著論文の場合、執筆者は、本研究科教員・研究員・研修員および博士後期課程 1 年次以上の大学院学生とする。ただし、研修員については少なくとも受け入れ教員 1 名の推薦、大学院学生については少なくとも指導教員 1 名の推薦のある者に限る。

上記の資格をもつ者が年度途中で身分を変更した場合にも、少なくとも前期に在籍すれば、投稿資格をもつ。ただし、身分変更を速やかに届けて、変更後にも紀要編集委員会と連絡が取れる状態にあることを条件とする。以上の条件を満たさない場合には、投稿資格を失う。

共著論文の場合、本研究科教員が第一著者となり、学内外の研究者（修士課程 1 年次以上の大学院学生を含む）を共著者とするもの、または本研究科研究員が第一著者となり、本研究科教員を共著者とするものに限る。

（2）内容

原稿の内容は未発表の学術論文とする。

（3）使用言語

原則として自由。ただし、外国人留学生は日本語で投稿すること。

（4）原稿枚数

A4 用紙で 1 枚当たり「42 字×38 行」とし、第一著者が本研究科教員の論文は 25 枚（本文 24 枚＋アブストラクト 1 枚)、それ以外の論文は 14 枚（本文 13 枚＋アブストラクト 1 枚）を上限とする。外国語論文の枚数もこれに準じる。

（5）投稿要領

投稿に際しては、執筆注意事項指定の書式に従い、原稿を締切日までに指定された提出先に提出のこと。

（6）投稿・問い合わせ先

紀要編集委員会

（7）原稿の掲載の可否

原稿の掲載の可否については、学外の専門家を含む複数の審査委員による査読を基に紀要編集委員会が決定する。

（8）著作権

本紀要に掲載された論文の著作権は本研究科に属する。

編集委員　駒込　武　福井佑介
西　見奈子　久富　望

令和6年3月14日　印刷
令和6年3月22日　発行

発行人　京都大学大学院教育学研究科
代表者　齊藤　智

印刷所　株式会社　北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2
TEL（075）791-6125

発行所　京都大学大学院教育学研究科
京都市左京区吉田本町

Kyoto University Research Studies in Education

No. 70

教育映画と視線の分有
－ジャン＝リュック・ナンシーのアッバス・キアロスタミ論－

乳幼児期からのメンタルヘルス対策に向けての一考察
－気質と腸内細菌叢に着目した発達支援の提案－

1920年代朝鮮の教育をめぐるナショナリズムと民主主義の関係
－申興雨 *The Rebirth of Korea*（1920）とJ. E. Fisher, *Democracy and Mission Education in Korea*（1928）の比較を中心に－

イギリスにおけるスクールズ・カウンシルの「言語学と英語教育プログラム」
－その理論的背景と教材の検討－

戦時体制下における看護学の高等教育への展開
－女子厚生専門学校および女子専門学校保健科の光芒－

日本の育児をめぐる現状と課題解決に向けた展望
－発達科学の観点から－

宣教師Mary Anna Holbrookと神戸女学院1894年「ある日本化運動」
－同志社との緊張関係を踏まえて－

鶴見俊輔「限界芸術論」の教育学的意義に関する一考察
－ジョン・デューイ「美的経験論」との比較を通して－

Graduate School of Education
Kyoto University
March, 2024